

平成 31 年 度

平成 31 年 1 月 27 日 実施

入 学 試 験 問 題

(看護学科 3 年課程)

国 語 総 合

◎指示があるまで開いてはいけません

注 意

1 解答用紙には、受験番号・志望校名が印刷されているので、あなたの解答用紙かどうかを確認すること。

なお、氏名欄、志望校名欄には、氏名、志望校名を漢字で正確に記入すること。

2 この問題は、表紙を除いて 1 ページから 15 ページまでであるので確かめること。

3 試験の時間は、9 時 00 分から 9 時 45 分までの 45 分とする。

4 解答には、B 又は HB の鉛筆を使うこと。(シャープペンシルは不可)

5 問題は、5 肢択一式により出題されている。解答方法は、次のとおりとする。

(1) 5 肢択一式問題の正解は、各問題とも 1 つである。解答用紙の所定のマーク欄に、正解の番号を 1 つだけマークすること。2 つ以上マークされている場合は無得点とする。

(2) 解答用紙の〔記入上の注意〕をよく読んでマークすること。

例 〔問 1〕日本の首都は次のうちのどれか。

① 京都 ② 福岡 ③ 東京 ④ 大阪 ⑤ 神戸

正解は「③ 東京」であるから解答用紙のその問題番号の次にならんでいる

マーク欄 ① ② ③ ④ ⑤ の中の ③ を鉛筆で ● のように

マークして ① ② ● ④ ⑤ とすればよい。



(良い) のようにマークする。

(悪い) のようだと機械で読み取れないことがある。

既にマークした解答を消す場合は、プラスチック消しゴムでよく消すこと。

国語総合

□ 次の文章を読んで、後の各問に答えよ。

海外で仕事をする多くの日本人は、それと知らずに、一方的に自分たちのシステムを相手におしつけてしまっている場合が少なくない。そしてそれが、こちら側の善意とか好意によって一毫の疑いもなしになされていたりするので、ことはいつそう悲劇的になるのである。次に記すのは、そのよい例で、青年海外協力隊の一員として、インドの農村の幼稚園で教えていた日本女性の経験である（これはその方が去った後、私がそこを訪れ、彼女の同僚から聞いた話である）。

この人は、この幼稚園で、本箱や用品箱の鍵をいつも閉めることになっているのを知り、こんなに幼いころから、鍵をかけなければ物がなくなるようでは、教育上なげかわしいことだと深刻に考えてしまった。鍵をかけなくても物をとらないような子供たちに育てなければならぬ。それが自分の使命であると信じて、鍵をかけないでも物がなくならないようにと、子供たちに説得し、その一年間あらゆる努力をしたのであったが、それはついに不可能なことで、彼女は絶望的な気持で帰国した、というのである。

相手のシステムを知らないということは、その当事者にとって大きなエネルギーの浪費であり、相手にとっては不快な異国のシステムの強制をしてしまうことになるのである。というのは、インドでは、鍵をかけるということは必ずしもだれかが盗むだろうという（相手を悪人とみなす）猜疑心からではない。このものを私（鍵をかける人）が知らないうちにちよつともつていかれては困る、このままにしておいてほしい、というときにも鍵をかけるのである。大家族の家などでは、すべて親しい家族の人々であるし、また、使用人も古くからいる家族成員のように信頼できる者ばかりで住んでいるのだが、そうした人々の間でも、みな個人のもの入っている戸棚や机の引き出しなどは鍵をかけているのが普通である。□ A、決して人のものになることのないようなアルバムの入っている戸棚でもそうである。鍵をかけるということは、私たちにとって、きちんとしめておく、といった感覚である。

□ B、伝統的に鍵文化をもたなかった日本では、鍵というものは一般には近代の都市生活の発達とともに使うようになったもので、それは、悪意をもっているかもしれない知らない他人からの被害を防ぐといった自己防衛、他人に対する疑惑を前提として機能している。鍵が指の一部のようにさえなっている伝統的鍵文化をもつインドの鍵とは、必ずしも同じ意味をもっていない。今日でも鍵を忘れたり、鍵をかけることをおっくうに思ったり、また、鍵というものを日常生活でもち歩かない人々が、まだどんなに日本には多いこ

とかを考えてみればよくわかる。インド人ほどではなくとも、欧米人などくらべても、日本人の鍵の感覚は驚くほど違う。欧米などでは当然鍵をかけるようになってる所に、日本ではかけていない場合が少なくない。インド人に鍵をかけさせないようにすることは、鍵をいちいちかけることをいやがる日本人に、鍵をかけさせるようにすることよりもむしろかしい。C、同じような条件で被害があったということを知れば、それによってその必要性が立証され、鍵をかけるようになるが、この反対に、必要でないということを立証するのはたいへんむずかしいからである。そのうえ、インド人たちの鍵をかける手つきをよく見ているとわかるように、「鍵をかける」などというより、指が自然にそこについてしまうのである。物をしめる動作のピリオドとして実にリズムカルにいくのである。あれをしないと、私たちがドアをきちんと閉めないのとちょうど同じ気持になるのである、ということがよくわかるのである。

こうした文化の違いというものを知らないで、つい自分たちの価値基準で相手を判断してしまい、それをしらずに強制してしまう。そして強制された相手の気持もわからない。どんなにいつても、相手が従わなかったり、同意しない場合には、X、考えてみることも重要である。そして、私たちの価値基準が必ずしも他の社会に通用するものではない、という謙虚な認識をもつ必要があるのである。

(出典 中根千枝^{なかねちえ}『適応の条件』より)

〔問1〕 それとあるが、この語が指示している内容として最も適切なものは、次のうちのどれか。

- ① こちら側の善意や好意である、ということ。
- ② そこが日本ではなく海外である、ということ。
- ③ 自分たちのシステムは相手に受け入れてもらえない、ということ。
- ④ 一方的に自分たちのシステムをおしつけてしまっている、ということ。
- ⑤ 自分たちのシステムと相手のシステムとが違っている、ということ。

〔問2〕 絶望的な気持とあるが、彼女がこのようになったのはなぜか。考えられる原因として最も適切なものは、次のうちのどれか。

- ① いつの間にか、自分も鍵をかけるようになったことに気づいたから。
- ② 鍵をかけないでいたら、ものをとられてしまったから。
- ③ 自分の使命であると思ったことを信じ切れなかったから。
- ④ 子供たちが、本箱や用品箱の鍵を閉めるのを止めなかったから。
- ⑤ 鍵の使用目的は盗難防止であることを理解してもらえなかったから。

〔問3〕 空欄 A・B・C に当てはまる語句の組み合わせとして最も適切なものは、次のうちのどれか。

- | | | | | | | |
|---|---|------|---|-----------|---|--------|
| ① | A | あるいは | B | さて | C | というの |
| ② | A | たとえば | B | ところが | C | なぜならば |
| ③ | A | つまり | B | ところで | C | なぜかという |
| ④ | A | また | B | それにもかかわらず | C | すなわち |
| ⑤ | A | または | B | しかし | C | そして |

〔問4〕

鍵^③をかけるということは、私たちにとって、きちんとしておく、といった感覚である^④とあるが、この感覚を表す語として最も適切なものは、次のうちのどれか。

- ① 毅然^き
- ② 決然
- ③ 当然
- ④ 判然
- ⑤ 必然

〔問5〕

鍵^④が指の一部のようにさえなっているとあるが、この説明として最も適切なものは、次のうちのどれか。

- ① 頻繁に鍵の開け閉めを行うため、常に鍵を持ち歩いていること。
- ② どのような鍵であっても開け閉めできるほど手先が器用であるということ。
- ③ 何にでも鍵をかけなければ落ち着かない心性になっているということ。
- ④ 鍵をかけるには、指を使って戸棚や机の引き出しなどを閉めるということ。
- ⑤ 鍵をかけるという行為が、特に意識することなく自然と行われるということ。

〔問6〕

空欄 X に当てはまる語句として最も適切なものは、次のうちのどれか。

- ① 必ず原因は自分たちにあると
- ② まずシステムが違っているのではないかと
- ③ 自らの主張に、魅力や正当性が欠けているのではないかと
- ④ おそらく、相手の無意識の反発なのだ
- ⑤ ときとして相手の気持ちになってみる必要があるのではないかと

〔問7〕

この文章の内容に合致するものとして最も適切なものは、次のうちのどれか。

- ① 他国の人とのつきあいには、ときとして、自分たちの価値基準を相手の価値基準に合わせて修正するという柔軟な態度が必要である。
- ② インドの幼稚園で教えていた女性の話は、教育は使命感だけではなく、教えるという技術も必要であることを示すものである。
- ③ インドにおいて、日本人から見れば、過剰なまでに鍵をかけるのは、猜疑心さいぎから思ってしまうが、これは、日本人の基準による判断である。
- ④ 日本人は、古来から、自己防衛の機能に長けていたが、近代の都市生活の発達により鍵の使用が一般化することによって、その機能はさらに強化された。
- ⑤ 他国の人と円滑な人間関係をつくるには、善意や好意であれば、自分たちの価値観を強制することはかまわないという態度を改める謙虚さが必要である。

□ 次の文章を読んで、後の各問に答えよ。

工藤晴夫は姉夫婦の家で暮らしている母の雅子と一年ぶりに会った。

赴任先が中国・武漢の工場なので、なかなか親孝行もできないことが気がかりだった。姉夫婦は母をよく見てくれていたけれど、母と自分には姉とは違う、気持ちの通いあいがあることを晴夫は意識していて、だから余計に、一年もの間会えないのは辛かったのだ。母は数年前から認知症を患っていた。

母の記憶から自分が抜け落ちていくプロセスを、晴夫は少しずつ、少しずつ体験した。行けば必ず、よく来たね晴夫、仕事はどうなの、と聞いてくれた母が、いつのまにか名前を呼ばなくなり、母自身の弟の名前と混同するようになり、それすら出て来なくなっていくのを、静かに遠ざかって行く引き潮のように感じていた。そしてその潮がもう二度と寄せては来ないことを、よくわかっていた。

訪ねて行ったのは夕方だった。

母はデイサービスに通っていて、家に戻ってくるのは五時半過ぎだと姉が言った。姉自身は仕事を持っているので帰りが七時ごろになるという。義兄は出張中でいない。

「いつもは、見守り介護の方をお願いしているんだけど、晴夫、五時ごろ来てお母さんといっしょに待っていてくれない？ ご飯は特別なものでなくてよければ私が朝作って出るし、少しおかずを買い足して帰るから」

晴夫は □ A。

できれば苦手な義兄のいない日に訪ねたかったし、母と二人きりになれる時間があるのは嬉しかったのだ。

デイサービスの送迎車がマンションの前に止まったのが見えた。

車椅子に乗った母が、施設の職員に押されて玄関に入る。

晴夫は待ちきれずに部屋を出た。エレベーターが昇ってきてドアが開く。

「あの、僕、息子なんです」

男性の職員に話しかけると、不思議そうな顔をされ、

「規則ですのでお家まで」

と言われた。

姉がデイサービスに連絡しておいてくれると言っていたけれど、ひよっとして忘れてしまったんだらうか。だとすれば、 □ B 中年男に出て来られて、不審に思うのも無理はないと思つて苦笑した。

「ああ、弟さんなんですわね。連絡帳に書いてありましたよ。じゃあ、ここにサインお願いします」

玄関先で差し出されたノートにサインをすると、ほうら息子さん来てくれたってよ、いいねえ、よかったね、と母に声をかけて、施設職員が帰って行く。車椅子から下りた母は少しよたよたと、家中にめぐらされた手すりを伝って部屋に入った。

「母さん、久しぶり。晴夫だよ」

声をかけると母は小さな目を開いて、

「そう。よく来たね」

と笑ってくれる。誰だかわかっているわけではないのかもしれないけれど、その笑顔と声は相変わらずで、晴夫はほっとして少し喉のところが熱くなりすらする。

「中国に行つてたんだよ。母さん、これ、お土産だよ」

鮮やかな刺繡の入ったシルクのスカーフを、母の短く刈り込んだ髪から覗く細い首に巻いてやる。

「ああ、いいねえ。きれいねえ」

「やわらかいだろ。母さんに似合うと思つてたんだ」

「C」

屈託なく自分を見つめる母の瞳に映る自分が、もう「息子」ではないことを晴夫は意識する。それでも母は、嬉しそうに笑いかけ、ねえ、と少し悪戯っぽい表情で続けた。

「私、あなたのことが好きみたい」

晴夫は少し泣きそうな顔で笑いだす。

困った人だよ、まったく。

「そんなことを、簡単に言うもんじゃないよ」

「嫌ね、誰にでも言つてんじゃないわよ」

晴夫は母の頭を抱き寄せる。そうだよ、誰にでも言つてもらつちや困るよ。

「これ、あなたにあげる」

何を思つたか母は、ハンドバッグからハンカチに包んだ何かを取り出して、晴夫の手に滑り込ませる。

「何？」

「ピミン」

玄関の鍵が開く音がして、ただいまあ、帰ったわよお、晴夫いるのお、という声がする。姉が戻つたのだ。晴夫は母にもらつたものを自分のポケットに滑り込ませた。

(出典 中島京子『長いお別れ』より)

〔問8〕

よくわかつていたとあるが、晴夫はどのような心境でいるのか。その説明として最も適切なものは、次のうちのどれか。

- ① 母の記憶から、急激に自分が忘れられていくのを寂しく思いながらも、もう戻らないのだろうと冷淡に受け止めている。
- ② 母の記憶から、徐々に自分が忘れられていくのを寂しく思いながらも、もう戻らないのだろうと素直に受け入れている。
- ③ 母の記憶から、急激に自分が忘れられていくのを悲しく思いながらも、母がいつか思い出すという希望を捨てずにいる。
- ④ 母の記憶から、徐々に自分が忘れられていくのを悲しく思いつつ、現実を受け入れられない自分を戒め続けている。
- ⑤ 母の記憶から、徐々に自分が忘れられていくのを寂しく思いつつ、結局何もできない自分を責め続けている。

〔問9〕

〔A〕に当てはまる語句として最も適切なものは、次のうちのどれか。

- ① 姉の提案に躊躇ちゆうちゆうした
- ② 姉の提案に反対した
- ③ 姉の提案に困惑した
- ④ 姉の提案を快諾した
- ⑤ 姉の提案を無視した

〔問10〕

〔B〕に当てはまる語句として最も適切なものは、次のうちのどれか。

- ① ようやく
- ② おっとり
- ③ いきなり
- ④ のんびりと
- ⑤ おもむろに

〔問 11〕

C

に当てはまる語句として最も適切なものは、次のうちのどれか。

- ① 晴夫、大きくなったのね
- ② 晴夫、いつも優しいのね
- ③ 晴夫、いつもありがとうね
- ④ あなた、飛行機に乗ったのね
- ⑤ あなた、とっても優しい人ね

〔問 12〕

屈託なく²とあるが、「屈託ない」とはどのような意味か。その説明として最も適

切なものは、次のうちのどれか。

- ① 心配事がなく、さっぱりしている。
- ② 悪気がなく、気持ちが素直である。
- ③ あどけなく、かわいらしい。
- ④ 遠慮なく、気軽である。
- ⑤ 邪念や、私欲がない。

〔問13〕

晴夫は母にもらったものを自分のポケットに滑り込ませたとあるが、この時の晴夫の気持ちとして、最も適切なものは、次のうちのどれか。

- ① もはや息子としては認識してもらえていないのに、母が自分を好きでいてくれることが悲しく、母からの贈り物を、姉には知られずに、自分と母の秘密にしたい気持ち。
- ② もはや息子としては認識してもらえていなくても、母が自分を好きでいてくれることは嬉しく、母からの贈り物を、姉には後で見せて、喜びを分かち合いたい気持ち。
- ③ もはや息子としては認識してもらえていなくても、母が自分を好きでいてくれることは嬉しく、母からの贈り物を、姉には知られずに、自分と母の秘密にしたい気持ち。
- ④ 今は息子として認識してもらえていなくても、母が自分をいつか思い出す手がかりとなる気がして嬉しく、母からの贈り物を、姉には後で見せて、驚かせたい気持ち。
- ⑤ 今は息子として認識してもらえていなくても、母が自分をいつか思い出す手がかりとなる気がして戸惑い、母からの贈り物を、姉には後で見せて、相談したい気持ち。

〔三〕 次の文章を読んで、後の各問に答えよ。

メキシコの汽車が山の中をとおりかかって汽笛をならすと、インディオが鳥を売りに来る。運転手がころあいの所にとめて、それから鳥の羽根をむしり、野外バーベキューを楽しんでから再び出発ということになる。したがって列車が二、三時間おくれるのはふつうのことだ。駅ソバを一分間でのみこむことをジマン^aにする国民とはずいぶんちがう。近代化の競争となれば、優劣ははじめからあきらかである。逆¹にいえば近代化というものが、どういう喪失の上になりたっているかということ、このエピソードは思わせもする。

日本の国電^{注2}が一時間ほどおくれたことのために、駅の乗客の暴動がおきたというニュースは、メキシコにも伝えられていた。それは必ずしも A 「民族性」云々の問題ではなく、「みんな生活がかかっている」のだ。精緻なシステムのハタン^bするときに一挙に裂け目を噴出するそのエネルギーは、分刻みに追われる時間に生活^cがかけられて、いる社会構造が、平常はみえないところに抑制し、たくわえているいらだちの情動のようなもの^dのすごさを感じ知らせる。「一日に二度とおる」^e というバスを朝から待つようなくらしの中で、緊急用件^{注2}の無限連鎖のシステムとしての〈近代〉のうわさがとおい狂気のように伝わってくる。

グアテマラ高地のマヤ族の村々のひとつトトニカパンの広場の市で、ぼくの目を奪った織物のねだんをきくと、八ケツツアル^{注3}（八ドル）だという。言い値の半額を主張して三分の二くらいで折合うのがこのあたりの買物のリュウギ^cになっっているので、四ケツツアルで買おうと切出し、長いやりとりの末、結局相手は五ケツツアル五〇セントボまで下げてきた。その間ぼくも五ケツツアルまで引上げていた。五ケツツアル五〇で買ってももちろんよいのだが、この機智に富んだマヤのおばさんと話していることが楽しかったのでわざとゆずらず、しばらく世間話など織込んで攻防を重ねたのちに五ケツツアル二五で折合うことを提言したが、彼女はこれ以上ゆずらない。話はまた世間話に戻り、ふと彼女がどこから来たのかと問うので日本からと答えると、その旅費はいくらかかるときく。ケツツアルに換算して答えると彼女は大仰におどろいてみせ、あなたは大変な金持ちにちがいない。五ケツツアル五〇くらいはかんたんに払えるはずだという。話の急転に一本とられたと思いながら、そんなに高いキップを買ったのであと五ケツツアルしか残っていないのだと切返す。この二五セントボ（約六〇円）の幅のところ^dでまたひとしきりかけあいのあと、結局ぼくが負けて、五ケツツアル五〇で買うことになった。ところがいざ代金を支払うことになる^eと彼女はニヤリと笑って、五ケツツアルでもよいという。ぼくは一瞬信じられずに聞きかえしたほどだ。これほどわけもなく五〇セントボをまけてくれるのなら、あの二五セントボの攻防に費した時間は何だったのか。

いや時間を「費した」という発想^fじたいが、すでにぼく^gの感覚の狂いではないか。グア

テマラやメキシコのいなかの市場は、売り手と買い手のはてしないかけひきに一日を暮らす。ぼくたちの世界では時間はたんに費用にすぎない。^{コスト}同じ成果をえられれば時間はみじかければみじかいほどよい。インディオたちにとって、時間はどんな時間でもそれ自体人生であるようにみえる。バスを待つ時間は近代人にとって、最少限にきりつめられるべき無意味な余白か、本をよむこと (doing) など^{に有効に活用されるべき資源だ}。インディオたちはどんな時間も等価に充実していることを知っているから、待つときは待つことのうち^にに現実に存在してしま^う。彼ら^が関心をもっているのは時間を活用することではなく、時間を生きることだ。

自動販売機の買物がいちばん気楽でいい、という世代が日本にもあらわれはじめたという。時間がコストにすぎない世界はプロセスの意味を脱色し、**B**を退縮させてゆくだろう。

³時間の意識が他者感覚に干渉するのだ。^{アーゲンシー}“urgency”の感覚が他者を尊重しないというのではない。交通機関の日本的な正確さが、メキシコのなルーズさよりも客観的に乗客を尊重する道であるという主張はまったく正しい。“urgency”の感覚は他者を尊重しないのではなく、⁴他者を抽象するだけだ。この抽象は巨大な市民社会において必要な抽象なのだ。この必要な抽象が近代人の性格を内奥から規定するとき、しかし必要な虚無のかなたにはじつは虚無しかないことになる。それは近代の時間意識がその影として分泌する死の恐怖とニヒリズムなのだ。交通機関はもちろん正確である方がいい。しかしその正確な交通機関⁴にのって、日本人は何をしにゆこうとするのか？今という時⁴がリアルでないならば、今でない時⁴がいつおとずれるのか？

(出典 見田宗介『青春 朱夏 白秋 玄冬』より)

(注1) —— インディオ…中南米諸国の先住民。

(注2) —— 国電…日本国有鉄道(昭和六二年に分割民営化され、JR各社が発足)の電車。

(注3) —— ケツツアル…グアテマラの通貨ケツツアル。当時(一九七七年頃)のレートでは一ドル(＝一ケツツアル)が約二五〇円。一ケツツアルは百セントボ。

(注4) —— レアル…リアル(現実)。

〔問 16〕 空欄 A・B に当てはまる語句の組み合わせとして最も適切なものは、次のうちのどれか。

- | | | | | |
|---|---|------|---|----------|
| ① | A | 先天的な | B | 出会いの能力 |
| ② | A | 地域的な | B | 計算能力 |
| ③ | A | 歴史的な | B | 歴史感覚 |
| ④ | A | 心理的な | B | 購買意欲 |
| ⑤ | A | 画一的な | B | 待つことの楽しみ |

〔問 17〕 「緊急用件」⁽²⁾の無限連鎖のシステムとしての「近代」について、その説明として最も適切なものは、次のうちのどれか。

- ① 命をおびやかすような出来事が次々に起こっている状態にあること。
- ② 何を最優先にするかを常に意識していなければならない状態にあること。
- ③ 日に日に複雑化していく社会の在り方をくい止められない状態にあること。
- ④ できるだけみじかい時間でよい成果をあげることが求められ続ける状態にあること。
- ⑤ 精密な技術を有しているものの、実際には、何も解決されていない状態にあること。

〔問 18〕 時間⁽³⁾の意識について、この説明として最も適切なものは、次のうちのどれか。

- ① 時間は費用だととらえていること。
- ② 時間は正確でなくともよいと思っっていること。
- ③ どんな時間も等価に充実していると実感していること。
- ④ 時間はプロセスの意味を脱色するものとわかってしていること。
- ⑤ 時間は死の恐怖とニヒリズムを生じさせるものだと思えないこと。

〔問 19〕

他者を抽象するだけだ⁴について、「他者を抽象する」とはどういうことか。その説明として最も適切なものは、次のうちのどれか。

- ① 他者の存在を認めないこと。
- ② 他者を自己と同一の存在としてとらえること。
- ③ 自分以外の人には個性を認めないこと。
- ④ 人を自己と他者の二種類しかないとは見なさないこと。
- ⑤ 個性を捨象し、共通性を引き出して人をとらえること。

〔問 20〕

この文章の説明として最も適切なものは、次のうちのどれか。

- ① 日本と筆者が旅した国とでの時間感覚の違いを、具体的な事例をもとに明らかにした上で、近代が抱える問題を指摘している。
- ② 旅先での出来事ができるだけ正確に記述しようとつとめ、読み手に事実の重みを伝えることで、近代が抱える問題を指摘しようとしている。
- ③ 旅先で出会ったマヤ族の女性とのほのぼのとしたエピソードを効果的に用い、近代が抱える問題を読み手の感情に訴えるという書き方で提示している。
- ④ 旅先での出来事を、近代にはいくつかの問題があるものの、人間が進むべき方向に向かっていくことを確認させてくれたエピソードとして紹介している。
- ⑤ 「日本Ⅱ近代」と「マヤ族Ⅱ近代ではない」とを比較して近代の抱える問題を示すとともに、こうした二項対立の思考法の欠点を指摘している。

余
白

